

日々是好日

検査
場
08

新年のご挨拶



検校庵 住職 鈴木 恵道

明けましておめでとうございます。令和六年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

昨年は太祖瑩山禅師七〇〇回大遠忌予修法要という難値難遇の年に出会え、更にご本山の本堂にて導師を勤める焼香師という大任を拝命する勝縁を頂く事が出来ました。

平成五年に師匠である当庵五世鈴木智道師が尼僧団の副団長のおり焼香師を勤め、年号が変わって令和五年に弟子の私が感謝の香を捧げる事が出来た数字のご縁、また還暦の年に記憶に残る修行の機会を頂戴し感激で胸がいっぱいです。

長引く感染症や自然災害など未だ不安の中ですが、それでも平和な毎日を送れ

る事は、多くの先人のお力であると感謝し、更に報恩行を實踐し、努力精進しなければと強く心した次第です。

檀信徒皆様のご清祥を心よりお祈り申し上げます、意中を尽くすことは難しいですが、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

○焼香師とは

ご本山に於いては春と秋の年二回、特に集中して修業する期間があります。

その中で執り行われる法要の導師を、禅師さまの代役としてお勤めするお役目のことを指して焼香師と呼びます。禅師さまの代わりですので、非常に名誉なお役と云えます。

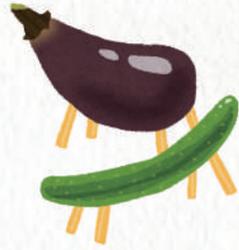
特に本年令和六年は大本山總持寺を開かれた瑩山禅師様が亡くなられて七〇〇回忌を迎える本法要が行われますが、その一年前に本番同様の内容で予め修行されるのが予修法要です。

此度の法要に併せて、大本山總持寺管主石附周行禅師猊下を導師にお迎えし検校庵檀信徒の先祖供養をお勤め頂いたことも重ねてご報告申し上げます。



令和六年の行事予定

どなたでもご参加いただけます。
法要を通して、仏の教えに触れてみませんか。



7月8日「^{せじきえ}施食会」10時半
お盆の先祖供養と、新盆のご供養をする法要。(お施餓鬼とも呼ばれます) 共にご先祖様へ掌を合わせましょう。
※当日フードライブ開催予定



3月15日「^{ねはんえ}涅槃会」10時半
お釈迦様の亡くなられた日に、そのご遺徳を偲ぶ法要。“やしょうま”を準備してお待ちしております。



12月7日「^{じょうどうえ}成道会」15時
お釈迦さまのお悟りをお祝いする法要。悟りに因んだお粥をお配りしております。



4月15日「^{けんぎょうさい}検校祭」11時
検校尊像の供養とお釈迦さまの誕生をお祝いする法要。「花祭り」を共にお祝いしましょう。

令和6年 法事年回表

1周忌	令和	5年	亡
3回忌	令和	4年	亡
7回忌	平成	30年	亡
13回忌	平成	24年	亡
17回忌	平成	20年	亡
23回忌	平成	14年	亡
27回忌	平成	10年	亡
33回忌	平成	4年	亡
50回忌	昭和	50年	亡
100回忌	大正	14年	亡

検校庵では、ご法事・通夜・お葬式・会食・勉強会・花見などの各種行事に昔からご利用いただいております。

お檀家さま・信者さまに限らず地域の皆さまに幅広くご利用いただくことが出来ますので、お気軽にお問い合わせください。

◆法事年回表とご先祖様の命日を見比べて、年回忌に当たっているかをご確認ください

◆土・日・祝日にご法事を希望される場合、お早めにご連絡をお願いします

◆本堂でのご法事・会食も可能ですので、是非ご利用ください

お寺をご利用ください

磨かざれば光無し

藤田 清隆

今号の表紙写真は、住職が焼香師を勤めた際に撮影致しました。広大な境内地の東西を結ぶ通称「百間廊下」と呼ばれる長い渡り廊下です。

まるで鏡のように輝いておりますが、ワックスなどが塗られている訳ではなく、修業僧たちが毎日欠かさずに雑巾がけを続けた結果、磨き上げられた床板が輝いているのです。

禅の逸話に南岳磨瓢（なんがくません）「瓦を磨いて鏡となす」という禅問答があります。

中国では開元と呼ばれる時代（西暦七百年代）、道一というお坊さんが、朝から晩まで坐禅に明け暮れていました。

噂を聞いた南岳和尚が様子を見に行くと、道一は眼を瞑り必死に坐禅をしています。

これを見た南岳和尚は、「お前さんは何の目的で、坐禅ばかりしておられるのか」と尋ねます。すると道一は、「仏になるために座っています」と答えました。南岳和尚は、「どこから一枚の瓦を持ってきて、庵の前の岩の上でそれを、ゴシゴシと磨き始めたのです。」

道一が驚いて、「老師はそんなことをして、何になさいますか」と聞くと、「鏡を作るため



に磨いておる」と答えます。「瓦を磨いても、鏡にはなりませんよ」と言うと、「坐禅しても仏にはなれるまい」と続けました。「それじゃ、どうすればよろしいのですか」と問い返すと、「人が馬車に乗って行くとき、車が止まったら車を打つがよいか、牛を打つがよいか？」と南岳和尚。道一はグツと詰まってしまったのでした。

南岳和尚は続けて次のように言われたのです。「お前のように格好ばかり仏さんでは、かえって仏を殺すことになる。また坐禅の姿にばかりに執著していると、とうてい真理には到ることはできません。」

悟りや修行についての問答であります。が、何も坐禅をして座ることだけが悟りの姿ではありません。日常生活の中でも自在に禅定のはたらきを保つことができることを示しております。

瓦を磨いたところで鏡にはならないでしょうが、瓦も磨き続ければ瓦らしく光り輝くことでしょう。百間廊下の輝きは、修業僧たちが代々磨き続けた結果であり、まるで鏡のように今も輝いております。